

高等学校における探究活動に関する研究 ～総合的な探究の時間を通して～

千葉県総合教育センター
カリキュラム開発部研究開発担当
研究指導主事 中川 航太

1 主題設定の理由

平成30年3月に告示された高等学校学習指導要領では、改訂の基本方針として、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善の推進があげられている。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、これまでの学校教育の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要とされた。これらを踏まえ、高等学校において、「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」に改められた。

今後、高等学校において「探究」をキーワードにして授業改善を図る傾向はさらに強まるものと考えられる。これからの社会で活躍できる人材の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、どのように学ぶかが大切である。そのためには、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行い、探究することをその本質とする総合的な探究の時間の在り方を手本とし、授業改善に努めていかなければならない。そこで、総合的な探究の時間における指導過程の在り方、特に、探究の四つの過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を中心とした指導の在り方を明らかにするとともに、全体計画・年間指導計画・単元計画の作成、指導体制の整備、評価の在り方などのモデルを示し、現場での円滑な遂行に寄与したいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の目的

本県の高等学校において、総合的な探究の時間の指導過程における全体計画・年間指導計画・単元計画、指導体制、評価についてのモデルプランを作成し、県内高等学校等に広く周知し、探究活動推進の一助とする。

3 研究の計画（令和元年度から令和3年度までの3か年計画）

令和元年度	令和2年度	令和3年度
○研究計画の立案 ○研究理論部分の立案及び協議 ○全体計画・年間指導計画・単元計画のモデルプランの作成 ○研究協力校による実践の記録 ○研究結果を総合教育センター Web サイトに掲載	○総合的な探究の時間を充実させるための指導体制の整備についての研究及び実践事例の収集 ○探究活動における評価の在り方についての基礎研究 ○ガイドブック理論編の作成と周知 ○総合教育センター Web サイトに掲載	○探究活動における評価の在り方についての研究及びその検証 ○研究協力校による実践の記録 ○前年度の課題の整理 ○ガイドブック実践編の作成と周知 ○総合教育センター Web サイトに掲載

4 研究の概要

総合的な探究の時間の指導計画の作成と指導体制の整備、探究の四つの過程の指導方法、評価の在り方について、「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 総合的な探究の時間』による理論研究や、研究協力校の授業実践等を基にして、『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック（理論編）・（実践編）を作成した。

(1) 研究協力校

令和元年度～令和3年度

県立長生高等学校 県立大原高等学校 県立袖ヶ浦高等学校

令和2年度～令和3年度

県立浦安高等学校 県立小金高等学校 県立松尾高等学校

(2) 指導・助言者

令和元年度

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹 氏

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渋谷 一典 氏

令和2年度

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渋谷 一典 氏

令和3年度

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 齋藤 博伸 氏

5 研究の内容

(1) 総合的な探究の時間の特質

ア 質の高い探究へ

小・中学校における「総合的な学習の時間」と高等学校の「総合的な探究の時間」の違いは、課題と自分自身との関係で考えることができる。「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」には、総合的な学習の時間は「課題を設定し、解決していくことで、自己の生き方を考えていく」のに対し、総合的な探究の時間は「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく」とある。

イ 各学校が目標・内容を定めること

総合的な探究の時間においては、学習指導要領に示された目標及び各学校における教育目標を踏まえ、各学校が目標・内容を定めるとともに、内容のまとまりごとの評価規準も作成する必要がある。総合的な探究の時間での取組を通して、どのような生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てるのかなどを、各学校が主体となって明確にする。

(2) 目標・内容と指導計画の作成、指導体制の整備

ア 目標・内容の設定

目標の設定にあたり、学習指導要領に記載の総合的な探究の時間の第一の目標、学校教育目標、生徒の実態等を踏まえ、育てたい資質・能力を明確にする。柱文及び資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）で整理する。

内容については、目標の実現するに相応しい「探究課題（何を学ぶか）」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力（どのようなことができるようになるか）」を具体的に設定する。

イ 指導計画の作成

学校として、生徒が入学し卒業するまでを見通して、この時間の教育活動の基本的な在り方を概括的・構造的に示した全体計画を作成する。また、全体計画を踏まえ、年間指導計画、単元計画を作成する。

単元とは、課題の解決や探究活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまりのことである。単元計画は、年間指導計画を踏まえ、生徒の興味・関心等に基づく単元を構想し、意図した学習を効果的に生み出していくことができるようにする。

ウ 指導体制の整備

総合的な探究の時間は、各教科、科目等との相互の関わりを意識しながら、学校として育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを行うことが求められる。これを実現するため、校内推進委員会を組織するメンバーを中心として、全教職員の共通理解のもと、学校全体で進めていくことが大切である。

エ オリエンテーションの実施

年度初めや単元の開始時に位置付けるオリエンテーションでは、探究活動の意義や今後の活動計画等を生徒に伝える。学習の目的やゴールを明確に示すことが今後の学習の動機付けとなる。

【取組例】全体オリエンテーションにより「何をどのように学ぶべきか」を明確にする（県立長生高等学校）

独自の教育モデル「長高メソッド」の学力観に則ってテキストを作成し、科学的倫理観・社会的実践力を高める学習を実践している。

生徒はオリエンテーションにより、学習の目的や意義を明確にし、1年間及び3年間の学習の見通しを持つことができる。



図1 全体オリエンテーションの様子

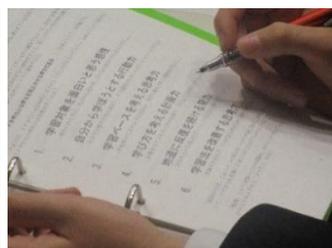


図2 独自に作成したテキストの一部

オ 生徒同士の人間関係づくり

個人やグループで取り組んでいくことになる。また、個人であっても周りの友人から意見や評価をもらうなどして次の学びにつなげていく。そのため、生徒同士の良好な人間関係を構築することができるようになるための手立てが必要である。

【取組例】アイスブレイクにより、生徒同士の人間関係を円滑にする（県立浦安高等学校）

「こんな大人が身近にいたら最高だ！」をたくさん考えるゲームを実施することにより、10年後に自分がなりたい姿や職業について思考を巡らせることができる。

付箋に内容を書いたら、声を出しながら机の真ん中に貼っていく。

〈指導のポイント〉

○質より量が大事であり、どんな意見でも受け入れる雰囲気づくりを行う。



図3 付箋に書いている様子

(3) 探究の四つの過程の指導方法

探究とは、物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営みのことである。総合的な探究の時間の本質は、探究の過程にある。生徒による自立的な学習の中で、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく（図4）。

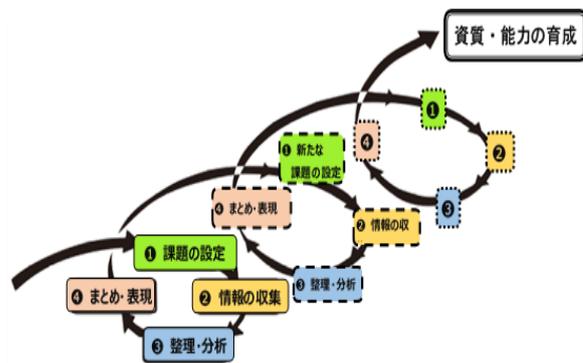


図4 探究における生徒の学習の姿
（文部科学省「高等学校学習指導要領解説
「総合的な探究の時間編」を基に作成）

【取組例】インタビュー（情報収集）の前後で職業観・勤労観の変容を分析する
 （県立大原高等学校）

情報を収集する前後における生徒自身の見方や考え方を比較・分析することで、生徒が自らの変容を捉え、自己評価する。

〈指導のポイント〉

- 振り返りの観点を明確にすることで、情報収集の前後で比較できるようにする。
- 体験で獲得した情報を言語化して記録する。

<p>なぜ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察官の仕事に興味があるから 	<p>適性は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力がある ・正義感が強い
<p>なぜ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の安全を守るために貢献したい 	<p>適性は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協調性がある ・モラルが高い
職業人インタビュー前	職業人インタビュー後

エ まとめ・表現

自分自身の考えとしてまとめたり、それを他者に伝えたりすることで自身の考えが明らかになったり、新たな課題が生まれたりする。

【取組例】ポスターとしてまとめ・表現をする
 （県立袖ヶ浦高等学校）

評価の高い作品を見て、分析し、今後の自身の作品に生かすことができるようにする。

〈指導のポイント〉

- 生徒が作品を評価する際の観点を明確にする。
- 評価の高い作品と自分の作品と比較する。
- 高い評価を得た生徒が、作品のポイントや工夫した点等を発表する。



図8 作品を説明している様子

(4) 総合的な探究の時間の評価

ア 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

学習指導要領が定める目標（第1の目標）を踏まえて、各学校の目標、内容に基づいて定めた観点による観点別学習状況の評価を基本とする。

学習指導要領 総合的な探究の時間に示された「第1 目標」は次のとおりである。

第1 目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

各学校が設定する目標は、第1の目標に示された趣旨を適切に盛り込んで作成し、育成することを目指す資質・能力は、評価の観点、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、

「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で観点ごとに評価することで、生徒の学習状況を分析的に捉えるようにする。

イ 具体的な生徒の姿を見取るに相応しい評価規準の設定

学習指導要領の第1の目標にある、育成することを目指す資質・能力から、年間などの内容のまとまりごとの評価規準は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの評価の観点を、下記を参考にして作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探究の意義や価値の理解	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①自己理解・他者理解 ②主体性・協働性 ③将来展望・社会参画

同様に、探究活動におけるそれぞれの単元の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準をもとに、実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージして、具体的な学習活動から目指すべき学習状況として観点ごとに設定する。また、本時の評価規準は、単元の評価規準からさらに具体化されたものになるようにする。

【取組例】上記を参考にして作成した評価規準（県立浦安高等学校）		
〈単元の評価規準〉		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①テーマについて、文献や論文などの検索方法や調査方法などを理解している。 ②設定した課題に関する情報を、様々なメディアや体験を通して調査・収集・整理し活用している。 ③大学や企業で活用するレポートの書き方を理解している。	①10個のゼミの中から、興味のあるジャンルを探し、課題を設定している。 ②設定したテーマについて、問いを設定している。 ③できあがった問いについて、根拠のある仮説を立てている。 ④問いをレポートやパワーポイントなどの成果物によって表現し、自らの探究内容を適切な方法で発表している。	①探究ゼミを通して、自分の進路選択について、考えようとしている。 ②グループ活動を通して、互いの良さに共感しながら話し合い、協働的に課題を解決しようとしている。 ③探究活動をする中で、自身に必要な学習活動を見出し、自らの学びを発展させようとしている。
〈本時の評価規準〉		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・探究内容について、動画やインターネットを活用して分析している。 ・レポートの作成について、書き方や表現方法について理解している。	・問いについて、発表の内容について、講師と相談しながら論理的にまとめている。 ・グループ内発表で、他者の発表について、相違点について客観的に分析している。	・グループでレポート内容について話し合い、担当を決め、互いの良さを見出しながら協働的に活動しようとしている。 ・他のグループの発表を見て、自身の課題の特徴を見出し、発展させようとしている。

ウ 適切な評価方法や評価場面

具体的な評価について、学校が設定する評価規準を具体的な生徒の姿として描き出し、期待する資質・能力が発揮されているかを把握することができるようにする。その際、具体的な生徒の姿を見取るに相応しい評価規準を設定し、評価方法や評価場面を適切に

位置付けることが重要である。具体的な評価の方法については次の三点、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、に留意する。

(ア) 信頼される評価の方法

○どの教師も同じように判断できる評価とし、指導する教員間で評価の観点や評価基準を確認する。

【取組例】 文献調査レポートの評価要領 (県立長生高等学校)

年間を通じた探究活動の各場面で3観点3段階のルーブリックを利用して評価を行う。これを基に単元の評価基準・本時の評価基準を作成することで、指導する職員も評価しやすく、指導を受けた生徒も今後の探究活動の改善につながる。

〈生徒に示したルーブリック〉

No.	評価項目	評価基準	評価基準		
			3 (優れている)	2 (良い)	1 (可)
①	情報の収集、整理についての知識・技能	必要な文献を収集し、適切に読み進めている。	課題の解決に必要な資料を収集し、十分な量の文献を正しく読み、適切に整理して示すことができる。	課題解決のための資料を収集し、複数の文献を読んで、整理して示すことができる。	課題解決のための文献を読み、それを示すことができる。
②	まとめ、表現にあらわれる思考力・判断力・表現力	レポートを論理的にまとめ、分かりやすく表現している。	テーマに即してレポートを論理的にまとめ、分かりやすく、説得力を持って表現することができる。	テーマについてレポートをまとめ、読み手にとって分かりやすく表現することができる。	テーマについてレポートをまとめ、表現することができる。
③	課題設定と分析にあらわれる学びに向かう力	問題意識を持ってテーマを設定し、レポートの内容を充実させるように努力している。	テーマ設定に自己と社会に対する問題意識が示されるとともに、レポートの内容が充実し、優れている。	問題意識を持ってテーマを設定し、レポートの内容がよくできている。	自分の関心のあるテーマを設定し、レポートを書くことができる。

○一単位時間で全ての観点を評価しようとするのではなく、生徒の姿となって現れやすい場面、すべての生徒を見取りやすい場面を選定する。

【取組例】 単元計画及び上記を参考にして作成した評価基準 (県立大原高等学校)

〈単元の指導計画〉 (一部抜粋)

時数	学習活動・ねらい	知	思	主	評価方法
2	希望事業所の決定 ・自らが希望する職業を明確にする。 ・希望する職業に就くために必要とされる能力を調べる。 ・希望する職種・業種に関する情報を調べる。		①	①	・ワークシート
2	希望事業所への依頼 ・社会人として適切な言葉遣いができるようにする。 ・会話を通してインターンシップの概要を伝える。 ・必要事項を聞き取り、記録する。	①	②		・電話のかけ方 ・ワークシート
8	実習記録簿の作成 ・志望理由を具体的に示す。 ・電話交渉の結果を正確に記録する。 ・実習記録簿に必要事項を正確かつ具体的に記載する。		③		・実習記録簿 ・ワークシート

エ 個人内評価

観点別学習状況の評価には示しきれない、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、個人内評価として生徒に積極的に伝えることが重要である。

<p>【取組例】 意識的な声かけにより、生徒が前向きに学習に取り組むよう促す (県立大原高等学校)</p> <p>教師は、生徒の自己肯定感を高め、自信と主体性をもって学習に取り組むことができるように、具体的な状況を示して声かけをしている。</p> <p>〈生徒への声かけ〉 「よく頑張ったね！」 「ここまでよく調べたね！」 「〇〇していたところが良かったよ！」 「〇〇がいいね！」</p>	
<p>図 12 企業への電話を終えた生徒を労っている様子</p>	

このような評価によって、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えて教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが大切である。

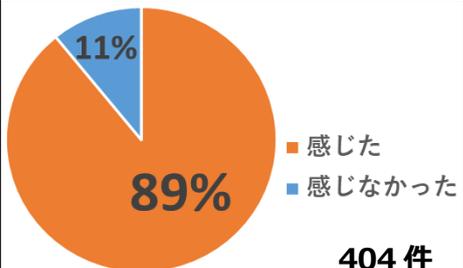
【令和3年度 評価の在り方についての研究】

令和3年度は、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするための実践の中でも、特に「評価を生徒にどのように伝えるか(生徒への通知)」に焦点を当てて研究した。研究協力校は、具体的な生徒の姿を見取るに相応しい評価規準の設定や評価を生徒に伝えるための場面や方法、評価者、回数などの工夫・改善に、学校や生徒の実情に合わせて取り組んだ。

《アンケート分析結果》

研究協力校の生徒・先生方の総合的な探究の時間を通しての感想や課題等を掲載する。
 〈生徒アンケート〉

<p>アンケート質問</p>	<p>評価の「生徒への通知」により、自ら学びを振り返って次の学びに向かうことができたと感じましたか。</p> <p>※授業で評価の「生徒への通知」があった場面について回答してください。</p> <p>「生徒への通知」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の書かれた用紙を受け取った ・レポート用紙に評価のコメントをもらった ・発表等のあと直接、言葉がけをもらった <p>などがあげられます。</p>
----------------	--

 <p>404件</p>	<p>アンケート回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価をもらうことで、自分の頑張りを客観的な視点から知ることができて良かったです。 ・評価を見て、その反省を次に生かしたいと思いました。 ・先生からの通知により、これから何をすべきなのが明確化され、今後の学習の進め方の方針が定めやすかったです。
---	---

89% の生徒が「次の学びに向かうことができた」と感じた

〈教員アンケート〉

○良かった点

- ・研究が進むにつれ、主体的に取り組む姿が多く見受けられるようになった。
- ・生徒の自信につながっているように感じた。
- ・生徒の多様な視点から物事をとらえ、問いをつくることの大切さを感じた。

○現状の課題

- ・課題研究の研究テーマを外部(博物館、図書館、店舗等)も視野に入れて決めることでより研究に対して主体的、意欲的に取り組むことができるのではないかと考えた。
- ・教員間での共通理解と、外部機関との連携の重要性を感じている。現在、本校では生徒一人一人に対応した指導ができており、その成果を今後のキャリア教育に生かしていきたい。
- ・「思考力」「表現力」などを問う時間を要する課題が多くなっているが、コロナによる休校等の措置によって、本来「指導の時間」として確保していた時間が確保できないことが多々あった。生徒は提示された課題を達成しようと努力しているが、課題に追われ時間的にも、精神的にも余裕がない状態が見られた。

研究協力校6校では、「評価を生徒にどのように伝えるか」という取組により、89%の生徒が「次の学びに向かうことができた」と感じている。総合的な探究の時間において、学習の過程や報告書、発表などに見られる学習の状況や成果などについて、生徒の良い点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価するとともにその評価を生徒に伝えることで、生徒が学習したことの意義や価値を実感し、自己の在り方生き方に自信を持ち、一層高めていけるようにすることが大切である。

6 研究のまとめ

3年間の本研究の成果を、「令和2年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック(理論編)」及び「令和3年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック(実践編)」にまとめ、県内高等学校及び高等部のある特別支援学校に配付するとともに、当センターWebページに掲載した。

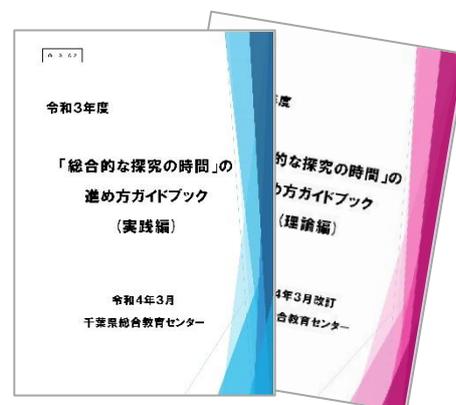


図13 ガイドブックの表紙

7 今後に向けて

本研究で作成した「令和2年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック(理論編)」及び「令和3年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック(実践編)」を県内高等学校の先生方に活用いただき、探究活動の推進に寄与するべく、令和4年度に、「高等学校(総合的な探究の時間)出前サポート塾」研修を県立高等学校及び県立特別支援学校(高等部)を対象に実施する。

その他、当センター主催の総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間に係る研修や当センター各部署、県内高等学校等との連携により、本研究の成果を探究活動の推進に役立てたい。